

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年 8月29日 更新

事務事業名		戦傷病者等援護事業				☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連	
総合計画体系	政策	4 みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	健康福祉部
	施策	18 社会福祉の推進				所属課	福祉課
	基本事業	53 地域福祉の推進				所属班	社会福祉班
予算科目		会計一般	款3	項1	目1	事業連番10428	法令根拠
		戦傷病者戦没者遺族等援護法					成果優先度評価結果
							コスト削減優先度評価結果
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返
						☐ 期間限定複数年度	(開始年度 18 年度) ~ (年度) 年度)

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	国が戦没者の遺族に対して弔慰の意を表し、また戦傷病者の妻に対して戦傷病者の日常生活上の介助等で受ける特別な精神的苦痛に慰藉を行うため様々な支援策を行うために、国・県の窓口業務を行う。昭和38年戦傷病者戦没者遺族等援護法施行対象者の高齢化が進んでいる。また遺族会の対象者の裾野が広がっている。本人申請であるため、合志市在住者の把握が困難。現在、遺族に対する特別弔慰金制度の中で補助的な申請が行われている。平成22年度より遺族会運営支援事業、戦没者追悼式関係事業、先の数々の大戦等で戦死した戦没者に対し、慰霊祭を行う際の祭壇設置委託料を統合。平成20年度より追悼式と名称を変更する。旧合志町、旧西合志町で慰霊祭の開催時期・開催方法等が異なっていた。18年度においては5月に総合センターウィーブルで開催。19年度は御代志市民センターで開催。20年度は総合センタウィーブルで開催。平成21年度以降は参加者の高齢化等に鑑み御代志市民センターで固定して開催。
【業務の流れ】	国・県の窓口業務を行う。遺族・妻への弔慰金制度により国債交付事務。戦傷病者乗車券引換証発行等。遺族会への補助金の交付。追悼式の開催
【主な予算費目】	役務費、委託料、負担金補助及び交付金
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	申請者本人が高齢となっているが、本人申請であるため、もっと申請の簡素化ができるようにとの要望あり。また、戦傷病者本人や遺族の高齢化が進み、反戦の流れを後世に伝えていくにはどうしたらよいかを考えなければならない時期にきているとの声あり。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
国が戦没者の遺族に対して弔慰の意を表し、また戦傷病者の妻に対して戦傷病者の日常生活上の介助等で受ける特別な精神的苦痛に慰藉を行うため様々な支援策を行うために、国・県の窓口業務を行う。遺族会への補助金の交付。追悼式の開催。		追悼式の開催方法等について遺族会との協議を行って行く。戦没妻特別給付金(5回目継続)の受付開始	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
ア 戦没者数	人		
イ 戦傷病者数	人		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
戦没者等の遺族、戦傷病者の妻、遺族会会員		ア 戦没者等の遺族対象者数	人
		イ 戦傷病者、妻の対象者数	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	
戦没者等の遺族に対して弔慰を表す戦傷病者の妻に対して精神的苦痛に慰藉を行う。		ア 戦没者等の遺族申請者数	件
		イ 戦傷病者、妻の申請者数	件
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
申請者数については対象者の減に伴い減少して行くことが見込まれる。			全体計画
			～ 年度
			0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
① 活動指標	ア 人		634	634	634	634	634	634	634	634
	イ 人		53	47	53	39	35	32	30	25
② 対象指標	ア 人		438	519	500	426	420	410	400	380
	イ 人		40	40	40	40	30	30	30	30
③ 成果指標	ア 件		0	4	1	0	0	0	30	20
	イ 件		0	2	2	0	25	5	2	0
投 入 費 用	国庫支出金	千円								
	都道府県支出金	千円	10	3	2	5	2	2	2	2
	地方債	千円								
	その他	千円								
	繰入金	千円								
	一般財源	千円	541	489	549	539	549	549	549	549
	(A) 事業費計	千円	551	492	551	544	551	551	551	551
	(A)のうち指定経費	千円	7	8	9	8	9	0	0	9
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件費	人	1	3	2	0	2	2	2	2
人 件 費	延べ業務時間	時間	50	110	200	0	200	200	200	200
	(B) 人件費計	千円	206	444	807	0	807	807	807	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	757	936	1,358	544	1,358	1,358	1,358	551

事務事業名	戦傷病者等援護事業	所属部	健康福祉部	所属課	福祉課
-------	-----------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した 遺族会との連携を図ることで、目標を達成できた。	☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 遺族会との連携を図ることにより、追悼式の開催や申請事項の周知等が行いやすい。	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 向上させる余地はない。	☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似する事業がない。	☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 対象者の高齢化も進んでおり、削減の余地はない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 対象者の高齢化も進んでおり、戦後60年を過ぎて死亡数も増加傾向にあるため削減の余地はない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 対象者に弔慰、慰藉を示すことは、市民の不戦の誓いにもつながり、公平・公正である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 遺族会との連携を図ることにより、追悼式の開催や申請事項の周知等が行いやすい。追悼式は市主催事業として実施していくことにより、市の不戦の誓いを明確にすることが出来る。	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

対象者の高齢化により、追悼式を市全体の取り組みとして、実施していくことが必要。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 遺族会について、高齢化が進んでおり、今後のありかたについて検討することが必要である。		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								